第4学年1組 道徳科学習指導案

第4学年1組（児童数 35名）

授業者　　永島 亮太

1 主題名　思いでつながる命（内容項目：D「生命の尊さ」）

2 ねらいと教材

（1）ねらい　　与えられた生命を大切にして生きようとする態度を育てる。

（2）教材名　　「おじいちゃんの ごくらく ごくらく」（出典：「4 きみが いちばん ひかるとき」 光村図書）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

生命を大切にし、尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言える。ここでいう生命は、連続性や有限性を有する生物的・身体的生命、さらには人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉えている。そうした生命のもつ侵し難い尊さが認識されることにより、生命はかけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならないとする態度が育まれるのである。

生命のかけがえのなさは様々な側面から考えられる。家族や社会的な関わりの中での生命や、自然の中での生命、さらには、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、発達の段階を考慮しながら生命の尊さについての考えを深めていく。自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にして生活していこうとする態度を育てるために、生命の連続性や有限性について気付かせられるようにしたい。

（2）児童の実態について

生命の連続性や有限性について気付かせられるよう、以下のような指導を行った。

①理科「動植物の観察」

動植物を観察したり育てたりする活動の中で、四季で生長過程が変化する動植物の様子に気付いたり、発芽しなかった種子を悲しんだりする様子を取り上げた。そのことによって、生命の不思議さや尊さに対する理解が高まってきている。

②保健体育「体の発達・発育」

身長や体重など、自身の成長の具合を「成長の記録」を用いて実感させたり、心身の成長についてアンケートから経験を想起させたりする活動を通して、心身の成長には個人差があることを学習した。その結果、自分だけではなく、他者の身体や命も大切だと児童が感じ取り、自他に配慮した言動が増えてきている。

上記の姿が見られる一方で、自分の利害得失を優先してしまう姿も見られる。そこで、本授業を通して、自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にして生活していこうとする態度を育てるようにする。

（3）教材について

本教材は、両親と祖父で生活をしていた主人公が、おじいちゃんの死と直面し、悲しみつつも死を受け止めるという教材である。生命の尊さを感得させるために、児童を主人公に自我関与させて、死と直面したときの気持ちを考えさせ、価値理解を深める。また、生命の尊さについて多面的・多角的に考えさせるため、祖父を真似る主人公に児童を自我関与させ、考え方や感じ方を自分の体験から類推できるようにする。

4 学習指導過程

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	□指導上の留意点　☆評価
導入	1 生命に対するイメージを共有する。 ○「命」とはなんですか。 「命って、何だろう。」	□事前のアンケート結果を提示し、本時で扱う内容項目への意識付けできるようにし、人の命に限定する。
展開	2 「おじいちゃんの ごくらく ごくらく」を読んで、話し合う。 ①「ぼく」は、おじいちゃんのどのようなところが好きなのでしょう。 ・いつも一緒にいて、優しいところ。 ・おもちゃを作ってくれる、ぼく思いなところ。 ②おじいちゃんとお別れの日、「ぼく」はどのようなことを考えていたのでしょう。 ・もうおじいちゃんに会えない。 ・何でおじいちゃんは病気で死んじゃったの。 ・すぐ戻るって言ったのに。おじいちゃんの嘘つき。 ・これからどう過ごせばいいんだろう。 ❸おじいちゃんのまねをすると、「ぼく」はどうして幸せな気持ちになれたのだろう。 （おじいちゃんの存在） ・おじいちゃんが見守ってくれている気がする。 ・「ごくらくごくらく」は、おじいちゃんとの大切な言葉で、おまじないみたいなもの。 ・おじいちゃんの顔や声を思い出せる。 （「ぼく」のこれから） ・天国にいるおじいちゃんを安心させたい。 ・幸せだと思って過ごせるように、できることを進んでやりたい。	□電子黒板に教材の挿絵を掲示しながら読み聞かせをする。 □「ぼく」から見たおじいちゃんの存在について考えられるようにする。 □死を受け入れられない「ぼく」に自我関与させて、おじいちゃんに対する多様な感じ方・考え方を捉えられるようにする。 □自我関与を深めるために、特定場面・状況を外した問いかけをする。 □命の尊さを、「ぼく」に自我関与して考えられるようにする。 □学習班（3、4 人グループ）で交流し、全体で共有できるようにする。 ☆「ぼく」が考えたことを通して、命の尊さについて考えている。 （発言・ノート）
	3 自分自身を振り返って考える。 ○命について考えましょう。 ・命は大切でいつかはなくなってしまうけれど、たくさんの思いがあって、今の自分や友達がいるから、互いを大切にしていきたい。 ・友達と遊んだり話したりして楽しめるのも、自分を大切に育ててくれている家族がいるからだ思ったし、けんかしても思いをしっかり伝えようと思う。	□自分自身とじっくり向き合えるように十分な時間を設定し、書く活動を行わせる。 □児童の家庭環境等に十分配慮して、共有を図る。 ☆命を大切にすることの大切さに気付き、これからの自分について考えている。（発言・ノート）
終末	4 相田みつをの詩を読む。 「いのちの根」	□相田みつをの詩を読み、命の尊さについて余韻をもって終われるようにする。